

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第22回

発言状況等	内容区分			分野	発言要旨	主意	I D
	質問	課題	提案				
第22回流域委員会				治水 (河川整備)	社会の変化が激しいので、価値観の多様化に対応した考え方で、考えていかなければいけないということです。もう一つは、リスク分散でこういう安全を考える計画では、一つですべてを賄うのではなく、幾つかに対策を分散しておく必要がある。 158号線の前の用水路を放水路にしておいて、周辺の農地をそのまま生かす、あるいは、それが農業利用の変化で湿地帯になれば、それこそビオトープなんですよ。そういうように、多様に土地を利用するという考え方、白黒じゃない考え方をもう少し取り入れてもらえないかと改めて思いました。 ダムをつくるのはよろしいけれども、今の時代ですから必要最小限にする。当然リスクがあるので、それを補うべく遊水地のようなものをああいうところにつくる。	治水対策を計画するにあたっては、今後の農業の土地利用の変化から「価値観の多様化への対応」と「リスク分散による対応」の視点が重要。水田は、常時湿地等のビオトープとして利用し、一方で洪水時のリスク分散として遊水地として利用する。	2201
第22回流域委員会				治水 (河川整備)	足羽川の治水対策として、どのような長期的な対策を持っておられるのか。2年ほど前この流域委員会が立ち上がったときに示された4川導水案が基本的な考え方なのか。 長期計画に基づいて今後足羽川全体の治水、治水を考えて想定される大きい用地買収は、今回にすべてを行っていただきたい。また県にもお願いいたしますとともに、委員の皆様にも、これ以上二重三重の苦しみを負わせることなく、ダム建設の場合においては、用地取得については一挙に解決して、事業実現を早期に完成するように努力するというふうに持っていただきたいということを私は心からお願いたします。	足羽川の治水対策は、長期的な対策を踏まえて考えていくことが重要。例えば、用地買収については、長期計画を視野にいれたもので、一挙に解決してほしい。	2202
第22回流域委員会				治水 (河川整備)	地役権とかいう設定じゃなくて、遊水地としてそこを囲い込んでしてしまうというんじゃなくて被害を設定したら、普通は大体洪水なんかの場合は、被害をこうむったら単年度で補償しますよね。 1年に何10億円か何100億円だったとしたら、それと比較してどうこうというんじゃないけれども、今から余りにも、物をつくって、がんにして、そこをそれしか使えないという形にするんじゃないかと、考える場合の一つの参考になるかなと思います。	遊水地として利用する水田の補償については、はじめから遊水地として利用することを前提に地役権補償をするのではなく、計画規模に同じ、被害を受けたときに補償する直接補償も考えてみるべきである。	2203
第22回流域委員会				治水 (河川整備)	あそこ全部を遊水地にするという案は最初からやめてくださいと言ってきたわけですが。これまで環境に負荷がないんだから、上流に治水専用の穴あきダムをつくるならいいだろうと言っているわけですが。それをできるだけ小さくするという、及び予想以上に大きい洪水があった場合のリスクを減らすために、下流側にそういうものもつくったらどうかと提案しているのです。そういう意味では、大きい遊水地は必要ないはずですよ。	遊水地は、あくまで計画規模以上の洪水が発生した場合の補助的な貯留施設として考えていくべきである。	2204
第22回流域委員会				治水 (河川整備)	事業費の比較でどういう方式でいくのかと選択するのはこの流域委員会の役目なんだろうかということをも今も思っておるわけでございます。 そろそろこの流域委員会でも方向づけをする段階になりまして、今までの議論、先生方の環境問題やいろんな問題、それぞれごもっともだと思いますけれども、それらをできるだけ取り入れながら、いいものをつくってほしいということを前回は申し上げたと思います。	整備計画は、事業費の比較のみで決めるのではなく、今までの流域委員会の議論を勘案し、かつ協力していただく多くの方々喜んでもらえるものにするべきである。	2205
第22回流域委員会				治水 (河川整備)	2,100m ³ /sというところは、福井市民としては何とかして確保してもらいたい。そのために、300m ³ /s足りないということであれば、300m ³ /s補填するために、方法として一番現実的なものがダムならば、ダムをとにかくお願いをしたい。 環境も考え、お金も考え、なおかつ、最大に一番大事なところは、僕は福井市民ですから、福井市民の治水のところ、何とかこれだけはお願いしたいというために、一番合理的なところがだんだん見えてきたのかなという思いがしています。	治水対策では、環境や事業費も考慮するが、最も大事なところは安全性の確保である。一番現実的な対策がダムならばダムをお願いしたい	2206
第22回流域委員会				治水 (河川整備)	流域委員会では、その30年で選択すべきものがこのうちのどれかということで、リスク分散という観点からいいますと、それを越えた洪水が来たときに、ダムだけでさらにその上乗せを考えるのがいいのか、あるいは、ダムと遊水地というものを組み合わせて考えていくのかというのは、その先の話だと思うんです。 例えば、ダムで300m ³ /sカットします。それをさらに上回る洪水を考えたときに、その大きな洪水をさらにそのダムでカットするのがいいのか、あるいはダムと遊水地を組み合わせて考えるか。例えば、300m ³ /sをダムでカットして、遊水地で300m ³ /s貯留するというのを考えると、まさにこの二つの組み合わせをその先のことで考えないといけないということで、そのときに、さらに大きなダムを考えていくのがいいのか、ダムと遊水地を組み合わせて考えていくのかという、その先の話ではないかという気がします。	当面30年の整備計画では、ダムが遊水地かを選択となる。この委員会は当面30年間で選択すべきものを議論する場であり、それを越えたときの洪水について議論するのはまだ先の話である。	2207
第22回流域委員会				治水 (河川整備)	その場所の人、あるいはその場所の付近の人が社会的な影響に対して十分理解してくれるかということ、土地を提供してもらえるということと同時に極めて大事なことで、これは机上の話ですから地域の人はまだだれも聞いておりませんし、そういう問題が出てくるんじゃないかと思えます。	遊水地を計画するにあたっては、遊水地候補地の地権者に、遊水地に伴う社会的な影響を十分に理解してもらうことが重要。	2208
第22回流域委員会				流域委員会での検討スタンス	そこで、先ほどから思っていて委員長さんをお願いしたいんですけども、ずるずるずるずると、これではまた、今日も、その次も、どれだけかかるかわかりませんが、やはり福井市の人たちにしても、また池田の人の立場にしても、何をしているんだというお気持ちがあるんじゃないかと思うんです。 もちろんお金もかかるし、そして環境にもいろいろな影響があるし、大変な大事業だとは思いますが、でも、いつまでもだらだらしていたのでは、なおさら申しわけないなという気持ちもありますので、できましたら今回というのはちょっと無理かもしれませんが、次回にはひとつ結論を出していただきたいと、これは私の前からのお願いでございます。	委員会として足羽川ダム建設の是非について、早期結論を出すべき。	2209
第22回流域委員会				流域委員会での検討スタンス	ダム案についても、それ以上どういう方法でとか、どういう金額でとか、そこまでこの流域委員会が立ち入るべきか、また、答申の場合においては、結局、治水対策としてはダムでもって対応せよというような程度でもって、あとは行政の方にその回答を任せるといいのかな。	流域委員会は委員の意見を集約する場であるので、事業内容、事業方法については行政の判断に委ねるべきである。	2210
第22回流域委員会				治水 (河川整備)	穴あきダムにするか、水をためるかというのはダムをつくるかどうかというくらい重要な選択です。だからこそ、この間穴あきダムの事例も見せてくれたわけですが。穴をあけるかどうかというのは、単にダムのタイプを決めるという問題とは異なります。その議論を放棄すれば、この流域委員会をする意味がないです。 二者択一ですから、合意形成はもう難しいんじゃないですか。穴をあけるか、あけないかですから。	足羽川ダムを穴あきにするか否かは非常に重要。流域委員会で議論をするべきであるが、二者択一となり合意形成は難しいのではないかと。	2211
第22回流域委員会				治水 (河川整備)	今日の時点では、治水については、ダムのつくり方は置いておくにしても、ダムの案で基本的に進めるといような形で集約をさせていただきたいと思っておりますので、そのような形で取り扱わせていただくことでよろしくごさいますでしょうか。	足羽川の治水対策として、洪水調節については足羽川ダム案で検討を進めるとの意見集約が概ね図られた。	2212
第22回流域委員会				治水 (河川整備)	最近遊水地みたいなものをしきりに幾つもつくられているのですが、それとこのダムとの関係はどうなっているのですか。その辺だけ教えてほしいと思います。家の近くに何か所か遊水地みたいなものをつくっているところがあります。	最近、遊水地のようなものが幾つか見られますが、吉野瀬川ダムとの関係はどうなっているのか？	2213
第22回流域委員会				環境・利水 (利水)	ため込むのはわかるが、これが工業用水とかにも活用されるわけで、どちらが優先するということですが、いつでもたっぷり水のある年ばかりではなく、非常に降雨量の少ないときもあるのですが、そんなときに大野なんか、結局どれが優先されるかということでも問題になって、川に流れる水が一番少なくなってしまうという感じになります。この0.22m ³ /sというのが、どうも流れるとしたら、どんな状況になっても流れるという保証を今いただいたのかと思うのですが、それでいいのか。 優先順位のところが気になるもので、10年に1度の濁水で、10年に1度以上の濁水があったときに、それは優先的なのところは決まっているのか、決まっていないのか、工業用水の方にまず行くのか、河川の維持水量の方にまず行くのか、その辺のところは、川には色がないけれども、これは考えれば、ユーザーの方にいくのかと、結局10年に1度以上になってくると、川は干からびることはあり得ると考えた方がいいのかと、どうなんですか。	吉野瀬川ダムの容量配分内訳の中で河川維持流量が確保されているが、10年に1回以上の濁水が発生した場合、下流への補給（かんがい用水、工業用水、維持用水）の優先順位をどのように考えているのか？	2214
第22回流域委員会				環境・利水 (利水)	工業用水は結構変化が、計画時点と昨今とでいろいろ違うので、水利権上はそんな過去があるのだと思えますけれども、そのあたりいかがですか。	工業用水については、昨今の著しい社会情勢の変化の中で計画時点と異なることがあるが、吉野瀬川ダムの利水の現状はどうか？	2215
第22回流域委員会				環境・利水 (利水・利用)	日野川流域をずっと歩いているのですが、上流を除いて中流、下流に至っては、なかなか人が川に近づけない環境という状況です。ですから、できるだけ人を水際に近寄れるような河川構造とか環境づくりに重点を置いていただきたい 30年先を考えながら整備計画を立てていこうとすれば、住民、市民、それから子供たちが、できるだけ川に近づくといい、川に関心を持たせるような環境づくりが、非常にこれから影響されてくると思います。	日野川の中流・下流域では、人が川に近づきにくい状況になっている。人が川に近づき、川に関心をもたせるような環境づくりが必要である。	2216
第22回流域委員会				治水 (河川整備)	昨年12月と今年の2月に日野川の樹木を伐採するための意見交換会を行いました。そのときに吉野瀬川下流域の住民代表の方も何人かおおいになりましたけれども、2回とも非常に洪水の不安を訴えております。それで、その話ばかりになってしまうのですが、とにかく一日も早く洪水の不安を取り除くような整備を早めていただきたいということを切実に訴えておりました。	日野川流域交流会では、日野川の樹木伐採を行うための意見交換を行った。そのとき吉野瀬川下流域の住民代表の方が洪水に対する不安を訴え、一日でも早く洪水の不安を取り除くような整備を早めて頂きたいと切実に訴えていた。	2217